

第1章 はじめに 全体版P1～3



1-1 プロジェクトの背景と目的 全体版P1

本プロジェクトの計画地である「甲突川左岸緑地と右岸緑地、その周辺の水辺を含む一体的な空間(以下、「甲突川河畔」という。)」は、本市の中心部に位置し、春には2km以上にわたって桜が咲き誇り、市内有数のお花見スポットとして多くの市民に親しまれています。

この桜は、昭和40年代に各種団体等から寄贈を受けたほか、50年代に、公益社団法人 鹿児島青年会議所(以下、「鹿児島JC」という。)が中心となり、甲突川河畔に「市民の憩いの場を作ろう」という思いのもと、様々な方々の協力を得て、「千本の桜」を植樹したことがきっかけとなっています。

しかし、この植樹活動からおよそ50年が経過し、桜全体の老木化や病害虫被害などの影響を受け、令和5年度末時点の桜の本数は430本程度まで減少しており、歴史ある「千本桜」の衰退や倒木などの危険性が懸念されています。

一方で、本市の中心市街地では、「にぎわいあふれる彩り豊かなまちづくり」を推進しており、甲突川河畔においても更なるにぎわい創出が求められています。

このような状況を踏まえ、本プロジェクトでは、歴史ある千本桜を再生し、市民の憩いの場としての機能を継承しつつ、新たな桜の名所として甲突川河畔の魅力をさらに高めるとともに、緑地空間の充実を含めた環境整備を進めることで、年間を通じたにぎわいを創出し、まち全体の活力向上へと繋げることを目的としています。



本プロジェクトの対象位置図



甲突川河畔の桜並木

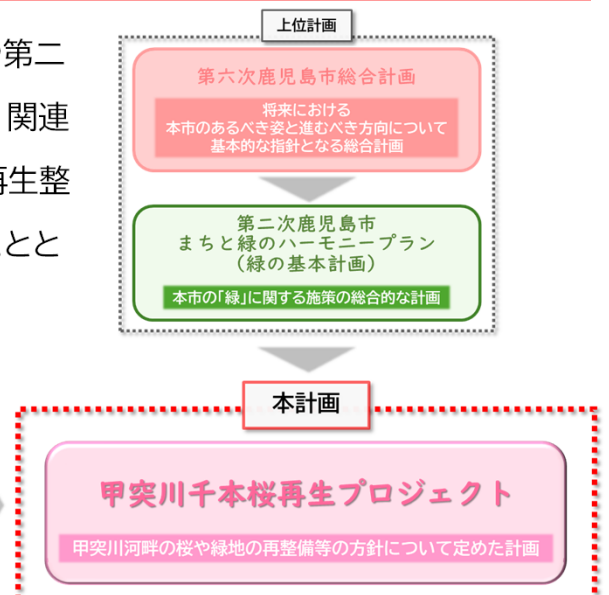
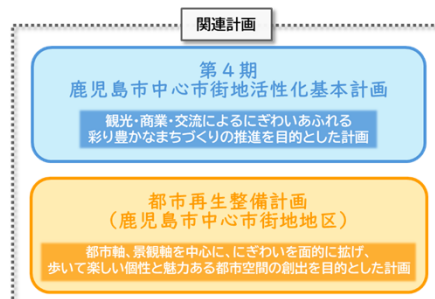


鹿児島JCによる桜の植樹祭の様子(*)

(*)写真出典:かごしま市民のひろば 平成25年3月号

1-2 プロジェクトの位置づけ 全体版P2

本プロジェクトは、上位計画である第六次鹿児島市総合計画や第二次鹿児島市まちと緑のハーモニープランと整合を図るとともに、関連計画である第4期鹿児島市中心市街地活性化基本計画や都市再生整備計画(鹿児島市中心市街地地区)と連携を図りながら進めることとします。



第2章 現状と課題 全体版P4～15



2-1 甲突川河畔の概況 全体版P4

甲突川河畔は、本市のお花見スポットとして長年親しまれているほか、南洲橋から望む桜並木や甲突川、そして桜島の生み出す眺望は、本市を代表する都市景観を形成しています。

高見橋から高麗橋間及びその周辺には、「西郷隆盛・従道誕生地」や「大久保利通生い立ちの地」など歴史的資源が点在しているとともに、「維新ふるさとの道」としても整備されており、歴史に想いを馳せながら散策を楽しむことができる場所となっています。

平田橋から高見橋間では、春と秋には「木市」が、冬には「破魔投げ」など、伝統的なイベントが行われています。

加えて、甲突川河畔には、桜以外にも、クスノキなどの樹木が植栽され、木陰の中で散歩やジョギングを楽しむ人々が見られるほか、川の中では観光船やSUP、カヤックなど水辺を活かしたアクティビティが行われており、市民の憩いの場としての機能も果たしています。



南洲橋からの景観



大久保利通生い立ちの地

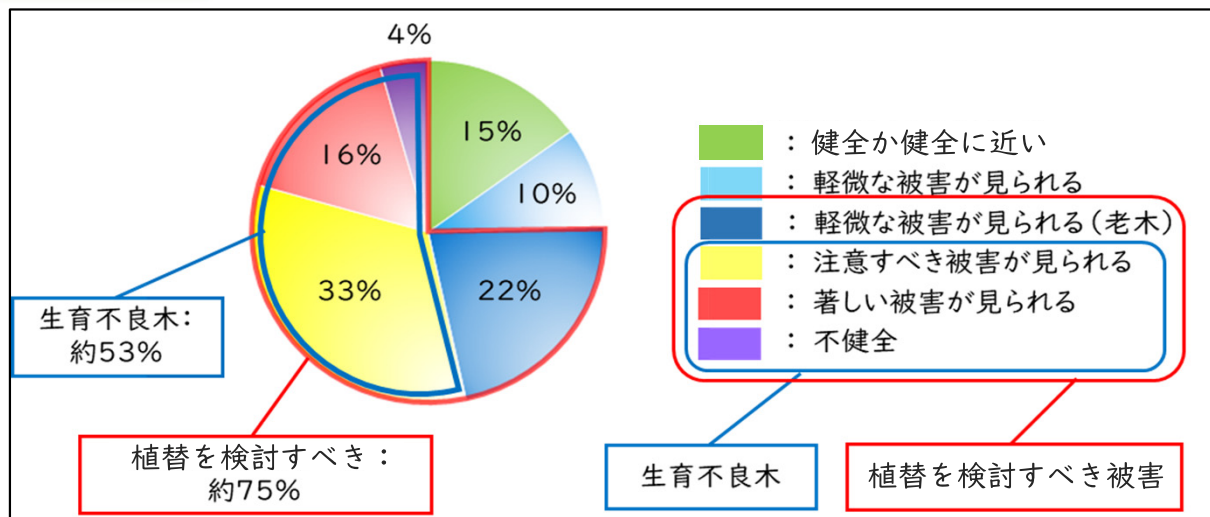
2-2 桜の樹木診断結果 全体版P5

桜の生育状況を把握するため、令和5年度に「樹木診断」を実施しました。

診断の結果、桜全体のおよそ75%において、老木化や病虫害被害等が確認され、“植替を検討すべき状態”であることが明らかとなりました。

この要因としては、植栽から年数が経過していることや生育環境・土壌環境の悪化などが考えられるため、再整備と合わせて、これらの改善も行う必要があります。

【診断結果】



2-3、2-4 甲突川河畔及び周辺の現況、市民意向調査結果 全体版P6~10

甲突川河畔及び周辺の現況、甲突川河畔に対する市民意向調査の結果を以下に整理します。

■桜など樹木に関連する事項

- ・桜の生育不良、樹木の生育環境の悪化（老木化、病害虫被害、腐朽、踏圧等）
- ・樹木の大木化による周辺環境や景観等への影響
- ・桜と緑で囲まれた憩い空間の形成

■その他の事項

- ・歴史を感じられる空間の形成
- ・水辺を活かしたアクティビティの実施
- ・こどもたちが集まる遊び場の形成

■緑地や施設に関連する事項

- ・グラウンド広場における日常的な利用者数の低迷
- ・加治屋町1番街区市街地再開発事業の計画
- ・屋外プールの老朽化と短期間利用
- ・眺望に優れた憩い空間の形成、隣接するシンボルロードとの一体性の欠如
- ・緑地内の遊具や東屋、ベンチなどの老朽化

■市民意向調査結果（回答数上位の内容のみ記載）

- 来訪目的 ⇒ 散歩・イベントなど幅広い目的で来訪
- 来訪したことがない理由 ⇒ イベント情報・駐車場・魅力の不足
- 良い点 ⇒ 多目的利用が可能、桜並木が美しい、BBQが可能
- 悪い点 ⇒ 夜間照明の不足、歩きにくい園路
- 今後必要な整備 ⇒ 休憩場所・休憩施設の設置、四季を感じる植物の導入

2-5 課題の整理 全体版P11~15

現況を踏まえ、以下の通り、5つの課題に分け整理します。

課題1 桜の衰退、桜の名所としての魅力低下

- 1-1. 桜の老木化や病害虫被害、ソメイヨシノの品種特性
- 1-2. 桜の生育環境・土壌環境の悪化
- 1-3. 桜を惹き立てる魅力的な空間の不足

課題2 大木化した樹木による様々な問題の発生

- 2-1. 樹木の大木化による緑地内や周辺環境への影響
- 2-2. 桜の生育環境への影響、桜並木の分断

課題3 年間を通じた魅力的なにぎわい空間の不足

- 3-1. 花見期間やイベント時以外の利用者数の低迷
- 3-2. 周辺のにぎわい拠点との回遊性の不足

課題4 憩い空間としての快適性の低下

- 4-1. 遊具や施設、園路などの老朽化
- 4-2. 駐車場や夜間照明の不足
- 4-3. こどもたちが楽しめる遊び場の不足
- 4-4. 地球温暖化による快適空間の阻害

課題5 千本桜を守り育てる取組の不足

- 5-1. 持続可能な維持管理体制の不足

第3章 再整備のコンセプト 全体版P16～22



3-1 基本理念 全体版P16

甲突川河畔が抱える課題を踏まえ、整備の方向性を定めるため、以下の基本理念を設定します。

基本理念

千本桜が織りなす
魅力あふれる にぎわいと憩い空間の創出
～ひと・まち・未来へつながる 桜の名所に～

千本桜の再生を行い、新たな桜の名所として、将来にわたり魅力的な空間を創出するとともに、園路整備や新たな賑わい施設の整備など緑地の整備を進め、活気あふれるにぎわい空間や心休まる憩い空間を創出することで、甲突川河畔を軸に人々の回遊性を向上させ、まち全体への活力向上へ繋げることを目指します。

3-2、3-3 施策の体系、基本施策 全体版P17～22

基本理念をもとに、以下に基本方針と基本施策を設定します。

基本方針

基本施策

【基本方針1】

千本桜が織りなす
魅力あふれる
空間の創出

- 【施策1】 老木化が進行した桜や生育不良な桜の植替
- 【施策2】 ソメイヨシノに代わる新たな桜の品種の導入
- 【施策3】 河川空間や眺望を活かした桜の再配置と充実
- 【施策4】 開花時期の異なる様々な桜の品種の導入
- 【施策5】 桜をはじめとした樹木が健全に育つための環境整備

【基本方針2】

いつでも
訪れたくなる
にぎわいと
憩い空間の創出

- 【施策6】 民間活力導入の検討
- 【施策7】 いつでも訪れたくなる高質空間の創出
- 【施策8】 利用者ニーズや安全性に配慮した緑地の整備
- 【施策9】 地球温暖化などの気候変動への対応

【基本方針3】

千本桜を
守り育てる
持続性のある
仕組みづくり

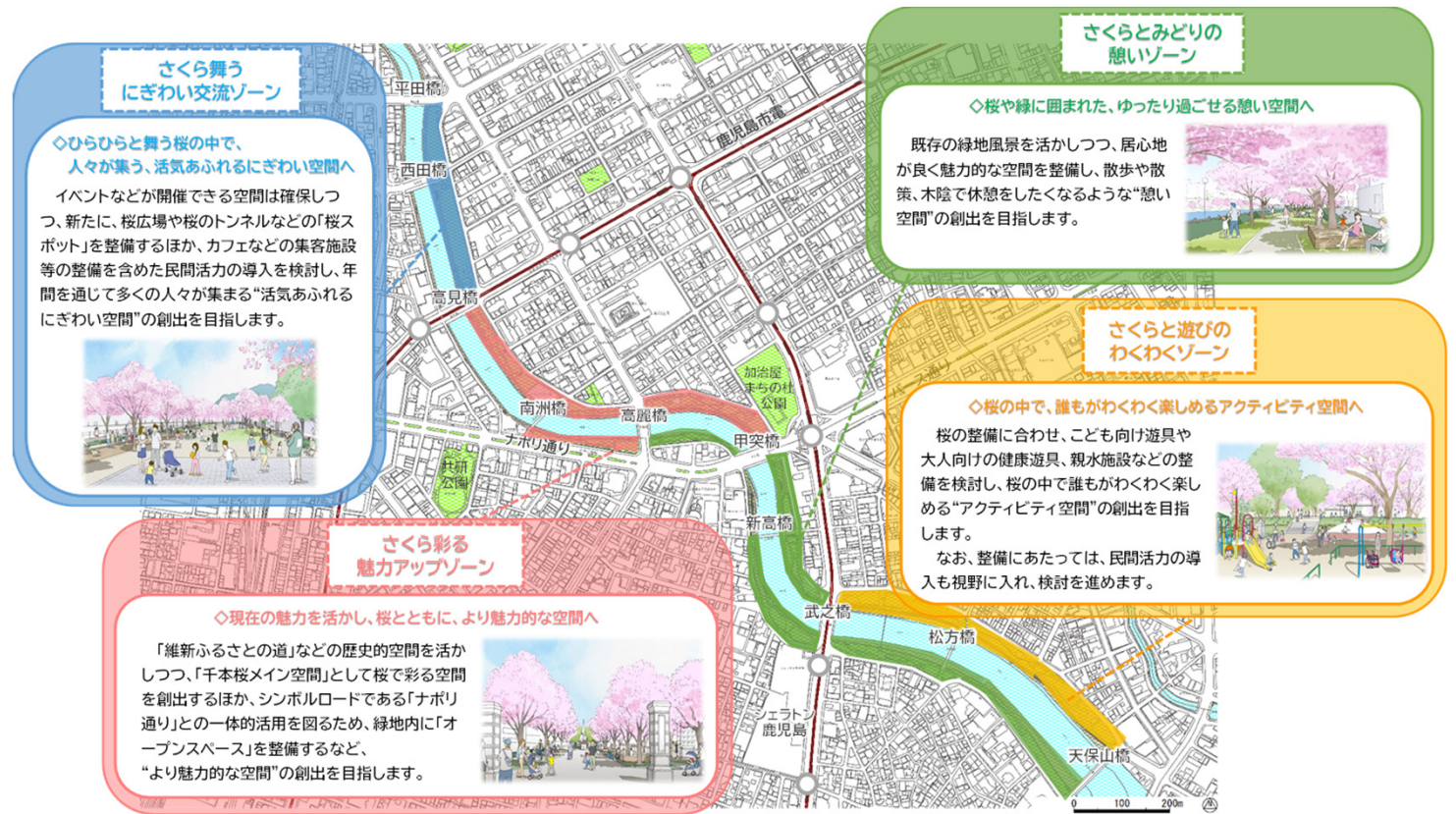
- 【施策10】 守り育てる千本桜の維持管理・保全方法等の検討
- 【施策11】 間引きした樹木の有効活用の推進
- 【施策12】 市民や事業者等との協働による千本桜の継承、千本桜や甲突川河畔への愛着醸成に資する取組の推進

第4章 再整備のイメージ 全体版P23～33



4-1 ゾーニング 全体版P23

基本方針や基本施策を踏まえ、ゾーニングを以下の通り設定します。

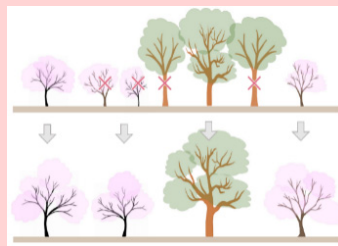


4-2 全エリア共通の整備方針 全体版P24～25

全エリアにおける主な整備方針を以下に示します。

■桜をはじめとした樹木の生育環境改善等に関する整備

1. 生育不良や老木化が進行した桜の植替
2. 樹木の間引き
3. 土壌改良の実施
4. 踏圧対策の実施



■桜の配植に関する整備

1. 適正間隔(概ね6～8m)での桜の植栽
2. 既存の桜の活用と植替
3. 桜の充実と景観演出

■桜の品種に関する整備

1. 他品種への転換検討
2. 開花時期の分散による花見期間の長期化
3. 既存のソメイヨシノの活用と品種更新

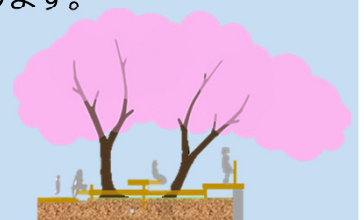
■四季を彩る植物の植栽

アジサイやサルスベリといった四季を彩る植物を要所に配植し、年間を通じて魅力的な空間を創出します。



■夜間照明や園路、休憩施設の整備

- 夜間照明や休憩施設の再整備・増設を行い、快適性の向上を図ります。
- 老朽化した園路の快適性向上に向け、透水性舗装などの導入を検討します。

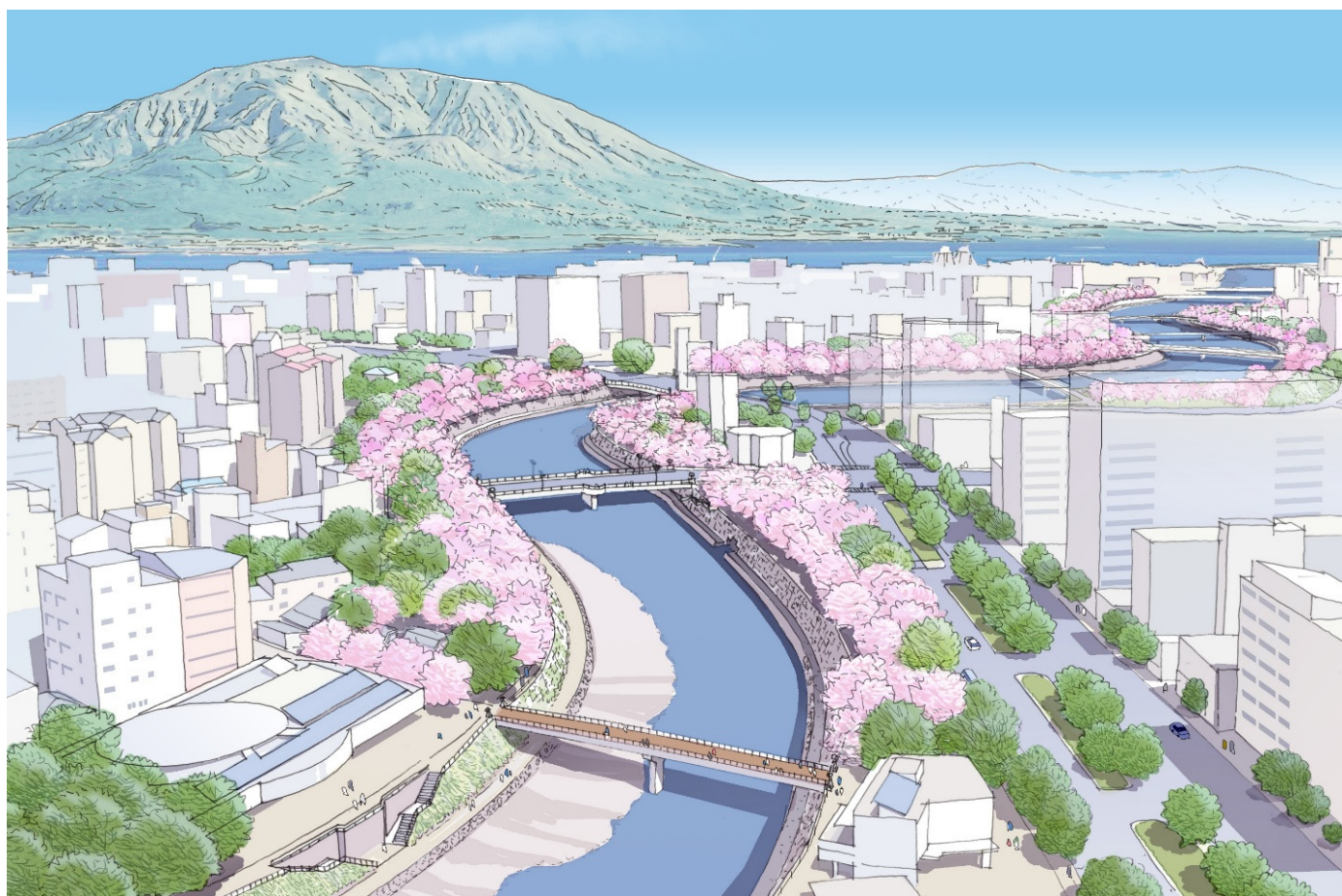


桜の品種マップ



※記載の品種はあくまで参考例であり、導入する品種については今後の検討を踏まえ、選定いたします。

鳥瞰パース



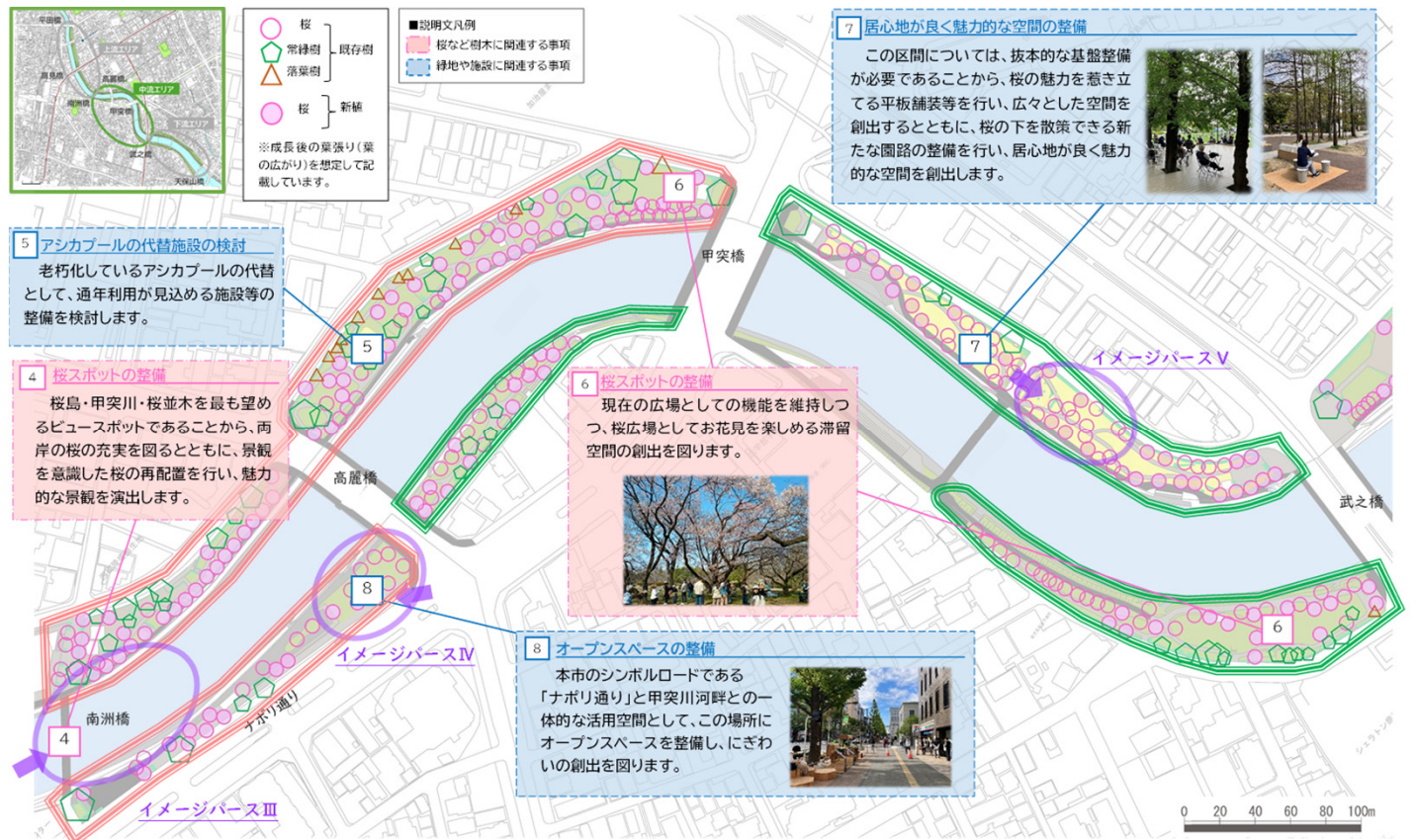
4-3 各エリアの整備方針 全体版P26～32

全エリアを上流・中流・下流の3区分に分け、各エリアにおける主な整備方針及び、整備後の樹木配置について、以下の基本計画図に示します。

(1) 上流エリア基本計画図（平田橋～南洲橋）



(2) 中流エリア基本計画図（南洲橋～武之橋）



※各イメージパスは、プロジェクト全体版をご覧ください。

※各種図面・計画内容は、今後の進捗状況により、変更が生じる場合がございます。

(3)下流エリア基本計画図（武之橋～天保山橋）



第5章 再整備のスケジュール 全体版P 34

本プロジェクトの上位計画の目標年度を踏まえ、令和13年度までの全面供用開始を目指し、ゾーンごとに整備を進めていきます。

なお、本スケジュールは、概ねの見通しを示しているものであり、今後の財政状況や進捗等を踏まえ、適宜見直しを行います。

ゾーン名	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
さくらとみどりの憩いゾーン	測量・基本設計	測量・実施設計	整備工事		-	-
さくら彩る魅力アップゾーン	-	測量・基本設計	測量・実施設計	整備工事		-
さくら舞うにぎわい交流ゾーン	-	-	測量・基本設計	測量・実施設計	整備工事	
さくらと遊びのわくわくゾーン	-	-	測量・基本設計	測量・実施設計	整備工事	

第6章 今後の展開 全体版P 35～36

再整備と合わせ、今後展開すべき主な取組を以下に示します。

■千本桜を育み、守り続ける仕組みづくり

- (1)保全管理計画の作成、人材育成**
本市独自の「千本桜保全管理計画」の作成を検討するほか、専門的な人材の育成に努めます。
- (2)持続可能な保全管理体制の構築、財源確保への取組**
保全管理にあたっては、地域で気軽に参画できる仕組みづくりを検討するほか、多様な方法による財源確保に向けた体制づくりを検討します。

■千本桜や甲突川河畔に対する愛着醸成への取組

- (1)千本桜に対する愛着醸成の取組**
千本桜に関する普及啓発、情報発信を行うことで、地域全体で千本桜を守っていく意識の向上を図ります。
- (2)甲突川河畔に対する愛着醸成の取組**
甲突川河畔の利用促進に向けた普及活動を推進し、市民が日常的に訪れたくなる場所として、更なる愛着の醸成を図ります。

■甲突川河畔を軸とした回遊性の向上、周辺環境への波及

再整備後の甲突川河畔の利用促進に向け、多様なプロモーションを展開し、にぎわい創出を図ります。

また、Park-PFIなど民間活力の導入を検討し、甲突川河畔の価値を高め、甲突川河畔を軸とした回遊性の向上を図ります。